

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部と連携した5年一貫教育体制を確立し、研究科博士課程前期課程開講科目の学部生受講を促すことにより、講義形式の科目を増やす。	→学部受講者数、学部から大学院進学者数。	C	B			
2. 演習担当教員に加え、複数教員による集団指導体制の強化により、学位取得プロセスに位置付けた研究指導体制を確保する。	→共同演習開講数および受講者数。	B	B			
3. 博士課程後期課程では、ワークショップ方式の科目を新設し、大学院生が自著の研究論文の報告、論文サーベイする能力を向上させる。	→院生の国際学会報告者数および報告件数、国内学会報告者数および報告件数、経済学ワークショップ報告者数および報告件数。	C	B			
4. 博士課程後期課程学生に学部科目などを担当させ、授業担当能力を高める。	→博士課程後期課程学生の学部科目担当者数。	D	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 経済学部出身の入学人数は、早期卒業者を含め、8名であった。(前期課程の総入学人数13名) 2010年度3つの共同演習科目を開講し3名が履修した。(いずれも前期課程生) 大学院生の国際学会での発表は1件(口頭発表:韓国)であり、大学院海外研究助成金を受けた。 経済学ワークショップの報告者については、5つのセッションにより実施し研究員4名、後期課程生2名が他大学の報告者とともに報告・セッションを開催した。また博士課程後期課程生に明示している「博士学位取得プロセス」をより遂行しやすくするために、次年度へ向けて、経済学ワークショップの改革を行い、義務付け(授業の一環:単位化)とし年2回実施する方向で検討した。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 科目の目的、各授業ごとの概要、評価方法、授業方法などを記したシラバスを学生に提示している。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) シラバスや授業などを通じて成績の評価方法・基準は学生に十分認知されており、単位制度の趣旨に基づく単位認定や既修得単位認定に関しても適切である。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <input type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→ → <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 研究者を目指す者に教歴をつけるために、2010年度は経済情報処理入門I(春学期)を当該研究員に対して非常勤講師を公募し、2名が採用された。博士課程後期課程生が授業を持つまでには至っていないが、今後の方策を検討するための前進となった。 博士課程後期課程生は年度初めに指導教授と確認し、研究進捗状況報告書を提出する。また共同演習を開講した場合には、その成果について研究科委員会にて報告し、指導内容については研究科委員会にて確認するなどし検証している。
その他	

《評価指標データ》

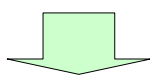
- 履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次 Semester ごと履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
- GPA値(全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業(授業公開)の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	博士課程後期課程学生に学部科目などを担当させ、授業担当能力を高めること。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究員の情報処理入門 I 科目の非常勤採用の継続と、その他科目での採用の検討。また博士課程後期課程生のTA業務内容の検討。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○進捗評価がC→Bと好転した「目標」1については、何らかの説明が望まれます。（「目標」3,4については、記述から読み取ることができます）

【学内委員】

○6.3.2シラバスを学生に提示しているだけでは、その通りに授業がなされていることを保証することにはならないのではないのでしょうか。

○2010年度評価が、2011年度にCからBに上がったものとして、目標3.と1.があります。前者について、大学院生の能力を向上させるため、「博士課程後期課程では、ワークショップ方式の科目」を改革した点は評価されます。後者について、「学部と連携した5年一貫教育体制を確立」するため、大学院授業への学部生の参加の促進が挙げられています。大学院進学制度の改革を行ったほかには、学部受講者数の増加等の改革が予定されていますが、教育方法や教育内容の点で、5年一貫構想をより明確化することが期待されます。

○小項目6.3.1は目標の進捗状況について記述され、状況が良く分かります。大学基準協会の留意事項を参考にされた記述があると、本項目についての状況が、なお良く分かります。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 修士修了者の専門的知識を活かした就職の実績を含め、大学院教育部会等での定期的な検証を行っている。